

海外に学ぶ 子どもを幸せにする少子化対策

2020年12月18日

東京都 こども未来会議 第2回

「世界の少子化対策・子供子育て支援」

株式会社日本総合研究所

池本 美香

(注)本資料の写真はすべて筆者撮影

出生率1.57ショックから30年 少子化対策で子どもは幸せになったのか

◆少子化対策の出発点

1986年:男女雇用機会均等法施行 × 1990年:前年の出生率が過去最低の1.57

= 子どもを産んでも女性が男性並みに働けるように、保育所整備、保育時間延長に重点

2001年:待機児童ゼロ作戦

2016年:女性活躍推進法施行

◆この30年の子どもの状況の変化

保育所・放課後児童クラブは長時間化＋重大事故増加など質低下

子どもの貧困問題の深刻化 子ども食堂、教育支援活動の広がり

親の孤立化と児童虐待の増加

子ども間のいじめ・暴力、大人からの体罰・性被害、不登校、自殺の増加

自由に遊べる場所・時間の減少

子どもが幸せになっていない → 子どもを持ちたいと思う人が増えない → 少子化

海外の子ども・子育て支援

①ノルウェー

1981年に子どもオンブズマン設置

国の家族政策の目的: ノルウェーの子どもや親が幸せになること

1998年に在宅育児手当制度導入

1, 2歳児を親が家で見る場合にも、保育所への補助金分を親に現金で給付

→ 移民の親などが地域で孤立、子どもの体験不足、親が仕事を辞めて貧困に

→ 2009年に1歳から保育所に通う権利付与、2012年に支給期間短縮(23か月→11か月)

保育施設に「親の会」と「親代表が参加する運営委員会」の設置義務

親同士の情報共有 親と園との協働 親の意向反映

放課後児童クラブは学校長の責任で整備

高学年には整備せず、子どもが自由に地域で過ごせるように支援

子どもの健康のため保育施設は冬も屋外で昼寝、雨の日も外遊び



海外の子ども・子育て支援

②ニュージーランド

1989年 子どもコミッショナー設置

子どもの福祉、女性の活躍推進、行政事務合理化の観点からの保育制度改革

1986年 幼稚園、保育所、家庭的保育等の所管を教育省で一元化

公平な補助制度(一時間当たり補助金+所得に応じた補助金) 2007年に3歳以上無償化

1989年 国の教育評価機関(ERO)設置 各保育施設の質を定期的に評価し結果を公表

保育者の免許更新制 犯罪歴等のチェック義務化

2002年 保育者の賃金を学校教員並みに引き上げ

保育・教育におけるICTの活用

国から保育者・教員に定期的なメール配信(Bulletins) + 情報提供サイト設置(VLN)

親と保育者で子どもの情報を共有できるスマホアプリ(Storypark)が半数以上の施設で普及

国立のオンライン学校(Te Kura)が待機児童、障害、病児、10代の母親、ギフティッドなどに対応

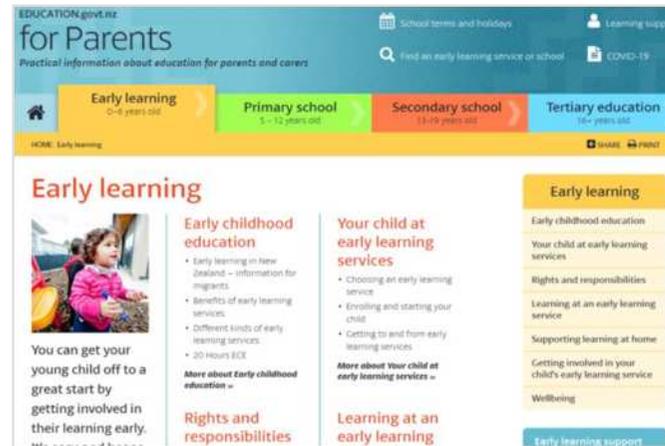
親が働く時間や場所について雇用主に要望できる制度(Flexible working)

親の孤立を防ぎ、必要な情報が得られるようにする支援

国がホームページで親向けに情報提供

保健省(左下)、教育省(右下)、乳幼児期専用サイト(SmartStart)

コロナによる休校中には親向けに特設サイト(Learning from home)



親が運営する幼児教育施設(playcentre)が80年の歴史

保育者を雇わず、すべての親が学習プログラムに参加したうえで先生役を務める

幼児教育施設+成人教育施設 親向けの本も置かれている

保育当番や学習会などにより、外国人の親などの孤立を防ぐ効果

乳幼児家庭専用の24時間365日対応の電話相談(PlunketLine)



海外の子ども・子育て支援 ③イギリス

子どもコミッショナーの設置

2001年ウェールズ、03年北アイルランド、04年スコットランド、05年イングランド
国の子ども・子育て支援の目標: イギリスの子どもが世界で一番幸せになるように

遊びの国家戦略策定(Play Strategy)

自然遊び、障害のある子どもの遊び、ロンドンの3分の2の地区で道遊びを実現

子どもの意見尊重・参加を重視

優れた放課後児童クラブの特徴として子ども会議など子どもの意見を聞く取り組み
リーズ市では子どものメンタルヘルスのためのウェブサイト子どもと一緒に制作(MindMate)

保育施設(Children's Centre)・学校(Extended School)で親も支援する

親の就労支援、フィットネスなどの親の健康づくり支援、カフェで悩みを聞き出し支援につなげるなど

スポーツクラブでの子どもの安全確保のため、親がチェックすべきことについて国から情報提供



海外の子ども・子育て支援 ④フィンランド

2004年に子どもオンブズマン設置

出産・育児相談所「ネウボラ」

同じ担当者が妊娠期から小学校入学まで継続して支援
健診から夫婦の心のケアまでトータルに無料で支援

図書館での子ども支援

オンラインゲームができる おしゃべりもできる ものづくりもできる
ゲームソフトに加え、縄跳び、フリスビーなどのスポーツ用品も貸出
遊びにおける格差をなくす
電子書籍貸出も普及

スタッフ(公園おばさん)常駐の公園「レイッキピイスト (leikkipuisto)」
午前は親子の集まり、午後は放課後の子どもの居場所



海外に学ぶこれからの少子化対策 「子どもにとって最もよいこと」を軸にした政策づくり

「子どもを幸せにすること」を少子化対策の中心に置く

そのためには海外の子どもオンブズマン、子どもコミッショナーが行っている

- ◆子どもの現状を調査する
- ◆子どもの声を聞く
- ◆政策改善を提案する
- ◆子どもの権利促進に向けて広報する

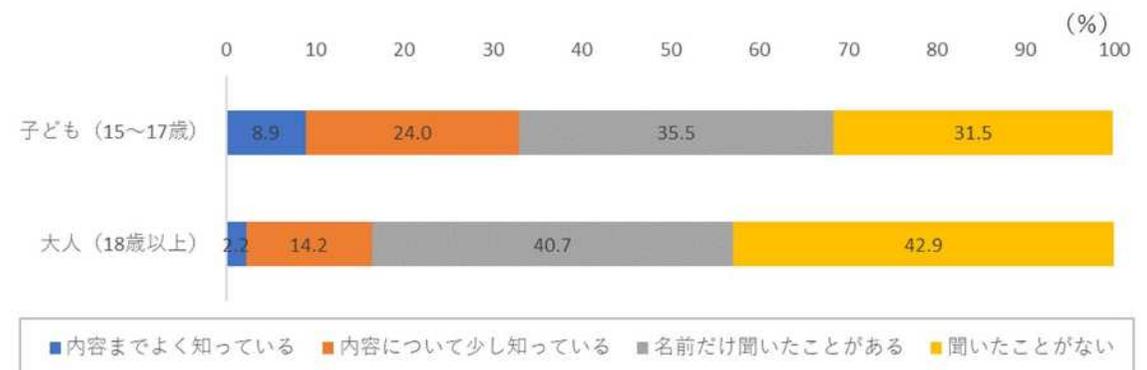
ことが重要

今後の課題:

- 子どもの意見尊重
- 子ども、親、教員等の情報へのアクセス
- 虐待・体罰・性被害ゼロ
- メンタルヘルスと遊び対策
- 働き方の見直し

次世代の国づくり

国連の子どもの権利条約の周知度



(資料) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「子どもの貧困と子どもの権利に関する全国市民意識調査」

(注) 調査時期は2019年8月。